

令和元年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ 伊藤 信博
氏 名 伊藤 信博

研究期間 令和元年度

研究課題名 アルザス地方におけるジャポニズムの流れと型紙の関連性に関わる研究

研究組織

	氏 名	学 部	職 位
研究代表者	伊藤信博	国際コミュニケーション学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

西欧におけるジャポニズムの発展史を伊勢型紙・江戸型紙の研究から、フランス・アルザス地方におけるイラストや服装デザインの発展とジャポニズムの影響関係とを追求する。

そのために、アルザスにあるストラスブール版画美術館、ミュールーズ装飾美術館、コルマール・ウンターリンデン美術館蔵型紙を中心に、その受け入れ時期や利用法からどのような芸術作品が生まれてきたかを歴史的に検討し、アルザスにおけるジャポニズムの発展と文化創造を明らかとし、日本とアルザスの関係史に新たな方向性を提唱する。特にミュールーズ装飾美術館には、1874 年に 171 点の型紙が所蔵されたとされるが、その内 100 点近くは明治の製作であり、残りが天保年間製作と想定され、どのような経緯で所蔵されたかも明確化する。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- ① ジャポニズムの発展史についての研究を行う。
 - ② アルザスにおける型紙の所蔵の年代を明らかとする。
 - ③ ストラスブール版画美術館に所蔵される型紙と西欧人が参照し、制作した作品との比較研究を行う（“Planches décoratives” 2017 版の翻訳や林忠正のオークション図録（1917 年版、表紙が型紙）、ビクトール・コランコレクション（在日・韓仏大使）1917 年も含め、比較対象とする）。
 - ④ ウンターリンデン美術館蔵の作品はコルマール図書館からの寄贈であり、残りが同図書館に所蔵されている可能性があり、依頼しリストを作成する。
 - ⑤ ジャポニズムの発展史と型紙の関連性を、特に西欧における装飾美術館創立の関連性を探る（ハンプルク美術工芸博物館創立者ブリンクマンとスイス・アアラウで新たに発見された型紙との影響関係）。
- 以上の研究を資料中心として、その歴史背景や作品の比較研究を型紙のモチーフ中心に行う。

3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

① ジャポニズムの発展史に関しては、明治 20 年～30 年 (1887～1897) が西欧における最初の型紙収集の中心であったことが明らかとなった。第三回パリ万国博覧会 (1878 年) が開催され、日本の様々な工芸品が評価され始めたのと同じである。その証拠はパリ装飾美術館に所蔵される型紙のほとんどがこの時期に横浜から船で運ばれたことが、裏紙に使われる新聞記事の日付で明らかであり、型紙の製作年代はさらに数十年遡るであろうと考えられる。1872 年のウィーン万国博覧会も西欧のジャポニズムの流行に大きく影響を与えているであろう。一方、収集した写真データでは同時期にジャポニズム風に製作されたパリ装飾美術館蔵の型紙が数十点あり、ジャポニズムの流行に日本の型紙製作者が大きく影響され、西欧人の好む作品を制作していた事実が明らかとなり、新発見となった。この結果、第二回パリ博覧会 (1867 年) 以前に日本でも西欧人が好むジャポニズムが何かを知っていたことになるのである。

②、③に関しては、調査の結果、1910 年～20 年代に収集された型紙であることが明らかとなり、⑤との関連性が強く指摘される結果となった。第一次世界大戦終了前後には、林忠正のオークション図録、スイスのアアラウ古文書館「型紙」コレクション、アイルランドチェスタービーティライブラリーなどに、同時期に日本の絵写本や型紙が収集されており、さらに多くの型紙紹介本も同時期に出版されている (古本を助成により、購入した)。このような事実から、ドイツの影響下にあったアルザスでは、装飾品としての壁紙や洋服のデザイン見本として、型紙が利用されていた事実が明らかとなった。そして、この時期がジャポニズムの隆盛時期であったろうと考えられる。ミュルーズ装飾美術館の収集時期 (当時はスイス領地であり、繊維産業が盛んであった) ともはつきりと重なっているのである。

③ に関しては、調査の結果やはり、1910 年～20 年代に収集された 200 枚以上の型紙であるが、複数枚型紙を重ねて、布にデザインを付けていくのであるが、どれも副の型紙であることから、日本人の専門家が関与している可能性が強く指摘される結果となった。

4. キーワード (本研究のキーワードを 1 項目以上 8 項目以内で記載)

①型紙	②ジャポニズム	③道具・商品	④美術品
⑤表装	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果は執筆中である。また、2020 年 3 月および 10 月にストラスブールにおいて、研究代表者を中心に、ストラスブール版画美術館、ウンターリンデン美術館蔵の型紙展示会を行うことが決定しており、パンフレットも代表者が執筆する。また、同年 10 月には、梶山女学園大学歴史文化館で、同大学蔵の型紙などの展示会を行い、研究成果の報告会も行う。なお、生活科学部の村上心教授の指導生が、研究代表者が収集した型紙専門書を参考に、伊勢型紙についての卒業論文を執筆している。さらに、村上教授と共にグローバル展開プログラム (2019 年) に「型紙研究からみた西欧のジャポニズムの発展と文化継承」として応募したが、採択されず、村上教授を中心に科学研究費挑戦的研究 (開拓) で現在応募中である。また、研究代表者の研究の中心である絵写本の表装にもこの型紙のデザインが使用されていることから、「海に見える杜美術館」、チェスタービーティ図書館に依頼し、表装の写真を収集し、型紙のデータベース作成 (科学研究費基盤 A に申請中) を中心に、今後、型紙研究の幅を広げる予定である。